

#19

ダンサー
私は努力を信じたい



MC・リポーター
井本彩花



今回のゲストは、ダンサーの Akanen こと^{みよしあかね}三好茜さんです。プロのダンサーとしてソロやユニットで活躍。数々の有名なアーティストに振り付けを提供したり、ミュージックビデオやライブでバックダンサーを務めたり、さらに世界の国々でダンスのワークショップを行うなど、さまざまな活動をされています。才能よりも努力を信じたいという Akanen さんにダンサーのお仕事について伺います。

ダンサーの仕事とは

ほとんどのダンサーはフリーで活動しています。イベントのステージやCMの撮影、ミュージックビデオやコンサートでバックダンサーとして踊るなど、さまざまな仕事があります。また、自分自身が踊るだけでなく、振り付けを考えたり、ダンススクールやカルチャーセンターなどで講師として教える人もいます。

ダンサーになるには

ダンスのテクニックは当然必要ですが、特別な資格はありません。多くは、大学や専門学校でダンスを学んだり、個人でレッスンを積んだりしてプロになります。Akanen さんによると、ダンサーの仕事は人づてに紹介されることが多いそうです。なので、1つ1つの仕事をがんばって信頼を得ることと、人とのつながりを大切にすることが、仕事を続けていくために重要になるそうです。

このページ掲載の文章・画像の無断転載を固く禁じます。



ダンサー・Akanenさんに聞きました！

自分の可能性を試したい！ と思って進路を変えた

井本：Akanenさんは、子どものころはどんな女の子だったんですか？

Akanen：子どものころは、結構活発な感じで、運動が好きでした。そろばんとか習字などいろんな習い事やってたんですけど、どれも全然長続きしないで……でもダンスだけは今まで続いたっていう感じですね。

井本：ダンスはいつから始められたんですか？

Akanen：ダンスは小学校3年生のころから始めました。

井本：ダンスと出会ったときはどんな感じだったんですか？

Akanen：小学校3年生のときにスイミングに通っていて、その2階のフロアでダンスをやっている。スイミング終わりに見学に行ったんですけど、それを見て「あ、やりたい！」って思って。それがダンスとの出会いですね。

井本：ダンスのどんなところが、引き付けたんですか？

Akanen：なんですかね。多分、音楽に合わせて踊るのが小さいころから好きだったと思います。もうずっとテレビ見たり音楽聞いたりして、こう、自分で自由に踊ったりしてたらしいです。ダンスは最初週1回レッスン受けてたんですけど、もっと増やしたい……ってなって、週4回まで自分で増やしました。で、高校卒業するまで、そこでずっと同じレッスンを受けてました。

井本：本格的にダンスの道を進もうって思ったきっかけって何だったんですか？

Akanen：（はじめは）高校を卒業したら保育士さんになろうと思っていて、短大に進もうと思ってたんです。だけど、高校3年生のときに、東京にダンスのレッスンを受けに行ったら、自分が全然見たことないジャンルとか、ダンサーばかりいて……で、地元では結構自分のダンスに満足してたんですけど、これは全然まだまだ知らないこともあるし、「自分の可能性を試したい」って思って、高校3年生の夏にダンサーになろうって進路を変えました。

毎日踊っていた専門学校時代

井本：保育士さんになろうって思ってたのに、何で夢を変えてまでダンスの道に進もうって思われたんですか？

Akanen：本当にダンスが好きだったので……東京に行ったときに、まだ自分に可能性があるし、道はいろいろあるんだって気づいて、ここでダンスをやめたら絶対後悔すると思って。そこで「よし！ ダンサーになってみよう」と思って進路を変えました。

井本：高校を卒業されてからは、どうされたんですか？

Akanen：高校を卒業してからは、ダンスの専門学校でダンスを学んでました。

井本：その専門学校は地元のですか？

Akanen：愛知県から上京して東京の専門学校に来ました。

井本：で、その専門学校ではどんな授業を受けてたんですか？

Akanen：いろんなジャンルのダンスを踊っていて、一日がもうそれで終わってしまうという感じでした。バレエもあったり、振り付けのためのクラスや、テーマパークダンサーになるための授業もあったりして。もう学生のころは必死で、どれだけ早くみんなより振りを覚えて、どれだけうまく踊れるかっていうことばかり考えてましたね。でもみんなと毎日ずっと踊ってたので、すごく楽しかったです。

井本：授業の中で、一番印象に残ってることはありますか？

Akanen：やっぱりバレエが、私苦手だったので……本当に体も硬くて。バレエのクラスは朝が早くて、朝起きるのも辛かったりしました。

井本：朝からバレエって、結構ハードですね。アルバイトとかは、やってなかったんですか？

Akanen：一日中ダンスのクラスをやっていたので、学校行く前の朝6時からアルバイトをやっていた……。

井本：学校に行く前?!

Akanen：学校行くまでに終わらせて、学校にそのまま行くっていう感じ（の生活）を、毎日やりました。

井本：毎日?!

Akanen：はい。

井本：体とか大丈夫だったんですか？ 体調面とかは？

Akanen：そのときは必死だったんで全然考えてなかったんですけど、毎日寝るときは、眠くてすぐ寝ちゃうっていう感じでした。

井本：ずっとその生活を続けてこられたって、すごいですね。

転機となったアメリカでの経験

井本：学校を卒業したら、すぐにプロになれるんですか？

Akanen：本当に人それぞれで、ダンサーの場合はいわゆる就職という進路はあまりなくて、ほとんどの人がフリーで活動しています。オーディションもあるんですけど公募のものは少なくて、知り合いの紹介で仕事をする人がほとんどですね。それで覚えてもらってまた声をかけてもらって、別の仕事を紹介してもらったりっていう……。次のお仕事につながっていくのも、本当に知り合いの紹介でっていうことが多いですね。

井本：Akanenさんは、最初はどうやって仕事を見つけたんですか？

Akanen：専門学校のときに、学校が生徒に仕事を紹介してくれたりしました。レコード会社主催のライブのステージのオープニングで踊ったり、ミュージックビデオに参加したり。学校からもらって仕事をしてました。

井本：そうなんですね。

Akanen：はい。卒業してからは、ステージダンサーで全国をまわったり、ダンススクールで先

生の代わりにして教えたりしてました。

井本：そうやって実績を積まれてきた中で、何か大きな出来事とか転機になるようなことはありましたか？

Akanen：自分の中で大きかったのは、22歳のときにロサンゼルス、ニューヨークにダンスを勉強しに行ったことです。動画のサイトで「このダンサーかっこいい、レッスン受けたいな」と思って、最初は友達と一緒にロサンゼルスに1か月レッスンを受けに行きました。

井本：特に印象に残ったことはありますか？

Akanen：印象に残ったのは、本当にみんなが積極的だったことです。もう遠慮しないで、周りの目も気にしないで「自分が一番前に行く！」っていう、みんな（がそういう姿勢）でしたね。先生のダンスに「あれ、こんな振りだったっけ？」って思うくらいのレベルでみんな自分の色を足して。でもそれぐらいしないと本当に先生に見てもらえなくて埋まっちゃうし、前に行かないとピックアップしてもらえない……もう、それぐらいしないとダメなんだっていうのは、（アメリカに）行って感じましたね。

お気に入りの音：レッスンのときの生徒の歓声

井本：Akanenさんが仕事の中で気に入っている音、好きな音についてお話を伺いたいです。

Akanen：好きな音は……自分がレッスンで教えていて、最初は音を出さなくてカウントで振り付けを教えて、「じゃあ、1回音を出して踊ります」って言って、みんなの前で踊るときに、みんなの、こう、「お～！」ちょっと大きいですけど……。

井本：「お～！」って感じですか？

Akanen：そうです！もう本当に絶叫マシン乗ってるか……ってぐらいの音がすごい聞こえるのが、いつも好きですね。

井本：いいですね。やっぱりテンションも上がりますよね。

Akanen：そうですね。

振り付けは、鏡の前でひたすら踊って考える

井本：仕事を進めていく中で、気をつけていることはありますか？

Akanen：レッスンのときは、生徒のダンスを見ながら「これはちょっと難しいかな」とか「まだ進んじゃダメかな」とか、見ながら考えてやっています。レッスン中は、みんなのテンションが下がらないように自分もテンション上げたりしています。振り付けを考えるときは要望に沿ったものを考えたり、アーティストに合う振りを考えるようにしています。振り付けの提出期限がいつも短いので、もう寝るときまでずっと考えてるくらい。私のダンスは強いヒップホップと女性らしい踊りを組み合わせたものなので、そこは結構、個性だなとは思っています。

井本：振り付けっていつ思いつくんですか？

Akanen：もう鏡の前に立ってひたすら音楽を聴きながら踊って、作っていくっていう感じです

ね、いつも……。

井本：振り付けの提出期間っていうのはどんな感じなんですか？

Akanen：「日曜日までに欲しいです」っていうのを、火曜日に言われたりとか。

井本：その期間の中で、思いつかなかったときとかあるんですか？

Akanen：いや、だからもう、朝から晩までずっと考えて……。

井本：それは大変だ。

Akanen：ご飯食べてるときも、「こんなことしてていいのかな？ 振り付け考えなきゃ」って結構考えちゃいます。

井本：ご飯に集中できない。ああ嫌だ。

ダンスは「才能」より「努力」だと信じたい！

井本：踊る技術とか振り付けを考えるアイデアとかはどうやって身に着けるんですか？

Akanen：私も昔からうまかったわけじゃなくて、どんどん回数を重ねるうちにやっと今の形になってきたので、これも練習かなとは思いますが。

井本：才能とかセンスがないと難しいものなんですか？

Akanen：才能やセンスでやってる人も結構いたりするんですけど、私はもう本当にずっと、振り付けがうまかったわけではなかったの。もう何回も何回も振り付けをしていって、そのうちに「あ！こう見えたらこう見えるんだ」「こう見えたら結構いいな」とか、いろいろ考えたりして積み重ねていって、今の形になったっていう感じですね。

井本：私、小学1年生から中学3年生までずっとクラシックバレエを続けてたんですけど、何度かヒップホップもやったことあるんですよ。で、やってみたらキレがないというか、うまくリズムを取れないというか。そういうのって「才能」と「努力」だったら、どっちが大切だと思いますか？

Akanen：自分は「努力」でやってこれたって思ってるので、ここは「努力」って、信じたいですね。

人とのつながりを大切にしてきた

井本：Akanenさんがダンスそのもの以外に仕事で大切にしていることは何ですか？

Akanen：一人ひとりとの関係を大切にすることですね。あいさつもその一つだと思っていて。何事も仕事は人と人とのつながりだと思ってるので、そこは大切にしています。

井本：Akanenさんがここまでダンサーとして、お仕事を続けてくることができたのは、なぜですか？

Akanen：本当にダンスが好きで、楽しかったので続けてこられたなとは思っています。レッスンではみんなが本当に楽しそうに踊ってくれてるのを見て、すごい私自身も幸せだったし。私のダンスを動画サイトにアップするとコメントで「感動しました」とか「ダ

ンス見て自分が変わりました」って書いてくれる人もいるので、それを見て、やっぱり続けてきて幸せだなと思ったりしました。人とのつながりの部分も結構大きくて。例えばツアーダンサーだったら「こんなアーティストでこんなツアーあるけどどう？」みたいな感じで、オーディションではなく直接声をかけられることが多かったです。だからいろんなシーンで全力でダンスをして次のお仕事につなげるってことが、自分の中で大切でした。

高校生へのアドバイス

井本：人とのつながりという意味では、コミュニケーションを取ることが苦手という高校生にアドバイスをするとしたらどんなアドバイスをしますか？

Akanen：今はSNSの時代なので、コミュニケーションを取れないという気持ちもすごくわかります。最初、対面でお話するのが難しかったらSNSでメッセージをしてみて、そのあと仲良くなったらお話をするくらいで私はいいのかなと思います。

井本：ではSNS以外でリアルに友達や先輩等とコミュニケーションをとる場合はどうしたらいいと思いますか？

Akanen：やっぱり自分も先輩や友達と接していて、嫌だなと思うことはたぶん相手も嫌だと思うので、あたり前ですけど“しない”こと。やっぱり昔から思うのは、笑顔でいるのって大事なので、いつも人と接するときは大切にしています。

将来ダンサーになりたい人は……

井本：将来ダンサーになりたいと思っている高校生は、どんな準備をしていたらいいと思いますか？

Akanen：そうですね、今は結構ダンサーの人口が多いので、やっぱり人と人とのつながりが大切になっています。いろんな先生のダンスレッスンに行ってお話を聞いたりとか、あとはそのスクールの生徒たちと知り合ってつながりを増やしていったり（するといいです）。あとはSNSに自分の踊ってる動画を載せて有名になったりする子が多いです。そこから「一緒にビデオ撮ろう」という流れになったりとか、あとは「PV（プロモーションビデオ）に出ない？」っていうこともあったりします。

井本：そうなんですね。では、ダンサーの皆さんが活躍する場所ってどんなところがあるんですか？

Akanen：ダンススクールやカルチャーセンターで教えたりワークショップをしたり、アーティストさんと一緒にツアーを回ったり、ミュージックビデオに参加したり、テーマパークで踊ったり、本当にいろいろあります。個人で仕事をしている人たちが多く、人とのつながりは本当に大切だなと思います。

Akanenさんの夢は……?!

井本：では、最後の質問になるんですけど、Akanenさんの夢を教えてください。

Akanen：大きな夢っていうのは特になくて、毎回その目の前の小さな夢……目標に向かって全力で走っていく感じです。例えば地元にいるときだったら「この曲でセンターを取る」とか、専門学校に行ったときには「この作品で主役もらう」とか。あとは「このバックダンサーになるために頑張る」とか。本当に次の次の小さな夢に向かって、目標に向かって全力で頑張っって走っていくって感じでしたね。



★あなたは体を動かすことは好きですか？

.....
.....
.....

★あなたは「才能」と「努力」のどちらを信じますか？

.....
.....
.....

★人とのつながりのおかげで、チャンスにめぐり合えたことはありますか？

.....
.....
.....

このページ掲載の文章・画像の無断転載を固く禁じます。